

佐濃自治会だより

2024年2月25日(日)

佐濃自治会発行

【第144号】



大海の一針 妙高の糸

2月20日(火)今年度6回目となる「おとなの笑学校」を実施しました。

今回は「道徳」で、“いのち”について、丹後町袖志“萬福寺”住職で元間人中学校長の村上正宏先生に授業をしていただきました。

● 数え年の考え方

授業は今ではあまり使われなくなった「数え年」の意味と命の誕生とのつながりから始まりました。

数え年の考え方は、人の命が宿った時から始まり、満年齢でいうところの0歳はないのだと。そして、釈迦の教え「大海の一針 妙高の糸」を提示。これは、大海に落とした針に妙高(高い山)から下した糸が通るといことだそうです。つまり、人の命の誕生はそれだけ奇跡的な出来事であることの例えとして話されたのです。

● いのちのバトン

私たちの命は父と母の2人、父と母の両親で4人、そのまた両親で8人、10代さかのぼると1024人、20代さかのぼると1,048,576人からバトンされています。この内一人でも欠けていたら、今の自分は存在しなかったこととなります。

この日26名の受講生は、村上先生が語りかける一つひとつの言葉に、自分の人生を重ねながら傾聴されている様子がうかがえました。(写真)

● 見えないものに気づく

現代社会では、様々な事象が視覚化され、目に見えるものが全てであるかのように思いがちです。しかし、本当に大切なことは、目に見えないところに本質があり、そこに目を向けることが大切であると。村上先生は「金子みすゞ」と「相田みつを」の詩から見えないものに気づく視点を示唆。【見えるものだけに目を向



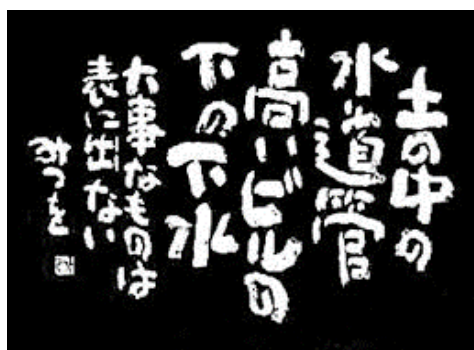
けていると「自己中心的(利己的)」になりやすい】

【見えないものに気づく視点を持つと「思いやりの心、感謝の心」が育つ】

今回は心が洗われる45分間の授業でした。

朝焼け小焼だ、
大漁だ
大羽鰻 おおばいわしの
大漁だ
浜は祭りのようだけど、
海のなかくては何斤の、
鰻(いわし)のとむらいます
るだろう。

金子みすゞ





お待ちしております！ 機業センターで

おとなの笑学校

シニアのみなさん(^_^) お元気ですか？

また、「おとなの笑学校」で

楽しい時間を一緒にしませんか。



令和5年度最後となる第7回目「おとなの笑学校」は修了式です。

5月お弁当給食 7月バスに乗っての遠足、9月クラフトを使ったクラブ活動など、初めてのことに楽しく取り組んできた1年でした。

そこで、元気に明るく過ごせた1年をお祝いして、この修了式には賑やかで華やかな大正琴の演奏（コンサート）を聴いていただきます。

お世話になるのは、「堀真弓先生とドリーム」の皆さんです。

コンサートのあとは、いつものように手作りおやつと“羽尻コーヒー”そして、生伴奏による恒例の“歌声喫茶”となります。

今回は「どこかで春が」「なごり雪」「春なのに」の他、常連の受講生からのリクエストで美空ひばりの「みだれ髪」など7曲を予定しています。

多くの方の参加をお待ちしています。

日時 3月19日（火）午前10時から12時頃まで

協力金 200円

参加される方は、予約が必要です。

3/15（金）までに、機業センターに電話又はファックスで申し込んで下さい。日・月は休館

84—0820（FAX兼用）（8：30～17：15）

佐濃地区以外の方の参加もOKです。但し、人数が多くなった時点でお断りすることがあります。よろしく願います。

佐濃自治会

